

# Good Job!

## ANNUAL REPORT

2015-2016



8

Good  
Job!





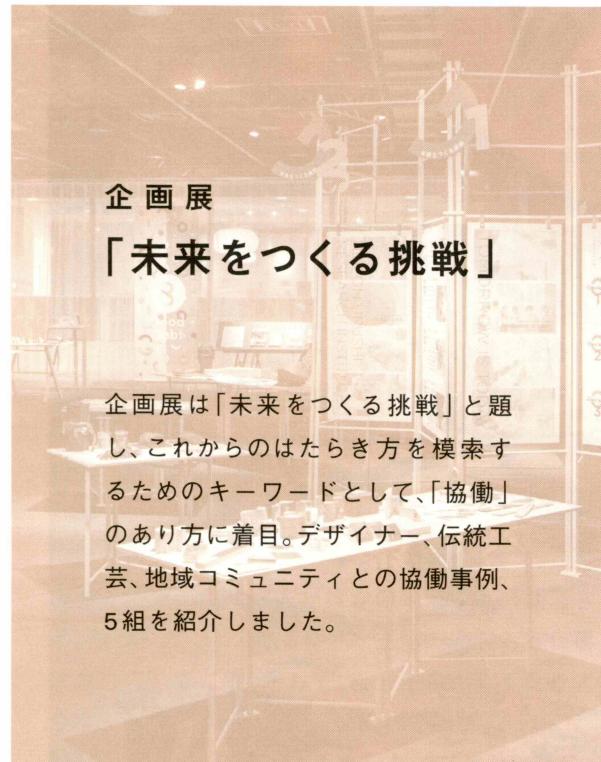
## Good Life, Good Job!

社会の変化や価値観の多様化により、私たちのライフスタイルは大きく変わりつつあります。近年、誰もが誇りを持ってはたらき、豊かに生きることができる社会のあり方を模索する試みが多数行われています。2015年度で4回目を迎えたGood Job!展では、障害のある人やその周辺で生まれつつある魅力的なプロダクトやユニークな取り組みに、そのヒントがあるのではないかと考え、さまざまな事例を紹介してきました。2015年度は、全国4カ所（宮城・東京・大阪・大分）を舞台に、アート・デザイン・ビジネス・福祉の分野をこえて、出会いと仕事が生まれる場づくりを展開。新たな活動の萌芽が育まれつつあります。

# EXHIBITOR Information

## Good Job! 2015-2016 出展プロジェクト

今年度より新設された2つの枠組み「企画展」「Good Job! Award」。障害のある人の仕事や生活の現場から  
“新たな仕事・はたらき方”のヒントになる17の取り組みを展示しました。



### 企画展 「未来をつくる挑戦」

企画展は「未来をつくる挑戦」と題し、これからのはたらき方を模索するためのキーワードとして、「協働」のあり方に着目。デザイナー、伝統工芸、地域コミュニティとの協働事例、5組を紹介しました。



#### 「TOMORROW IS TODAY」

Good Job! プロジェクト×原田祐馬+吉行良平

デザイナーと障害のある人がともに手を動かし、地域の素材を用いて、生活に根ざしたプロダクトを開発する取り組み。

##### G TOMORROW IS TODAY のここが Good Job !

企画・開発の過程に、デザイナーが綿密に関わり、創造性を引き出すワークショップを実施。また、つくり手の個性が垣間見える“素直”なものづくりをしていることもGood Job !



#### 「ありがとうファーム」

株式会社ありがとうファーム

一人ひとりの「やってみたい！」を一般就労に結びつけ、主体的にはたらける豊かな土壤を目指す、商店街の福祉事業所。

##### G ありがとうファーム のここが Good Job !

商店街を拠点に、テーマ型コミュニティを創出。テレワークを活用し、在宅でのづくりを展開するなど、一人ひとりがそれぞれの得意分野をいかして仕事をつくっている！



### 「NPO法人スウィング」

京都

遊ぶこととはたらくことを両立させる新しい仕事観を実践し、アートや福祉の枠組みを軽々とこえて活動を展開するNPO法人。



### 「RAKUZEN」

合同会社楽膳

福島県の会津塗の伝統工芸士や、障害者支援を行うNPO法人、デザイナーとの協働で制作する食器シリーズ。



### 「日本漆総合研究所」

一般社団法人日本漆総合研究所

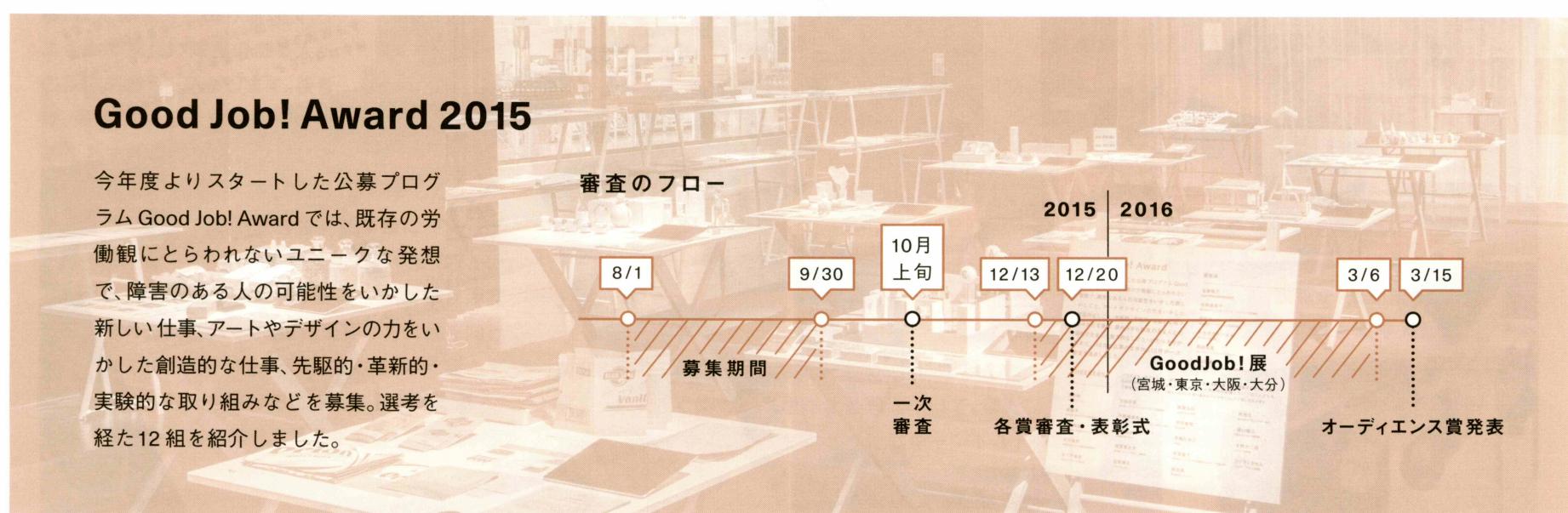
国産漆の保存と技能の伝承、活用法の開発を行い、東日本大震災以降は障害のある人の雇用創出事業にも取り組む、漆の研究所。

##### G RAKUZEN のここが Good Job !

会津漆器の特長や技法をいかした独特な造形で、美しく使いやすい製品を障害のある人とともに開発。つくるだけではなく、修理サポート体制など、持続可能な生活を提案！

##### G 日本漆総合研究所 のここが Good Job !

漆の植樹や漆塗りによる文化財的建造物の修復を行うほか、漆の実によるコーヒーやろうそくづくりなど、漆にまつわる文化を伝承しながら、仕事づくりを実践している！



## Good Job! Award 2015

今年度よりスタートした公募プログラム Good Job! Award では、既存の労働觀にとらわれないユニークな発想で、障害のある人の可能性をいかした新しい仕事、アートやデザインの力をいかした創造的な仕事、先駆的・革新的・実験的な取り組みなどを募集。選考を経た12組を紹介しました。



「ドニさんの家」  
京都  
ドニさんの家×社会福祉法人オリーブの会

障害のある人が作業する農園の一角に「ドニさん」が暮らすことで、多様な生き方を受容できる関係性と、磁場を育む取り組み。

G ドニさんの家のここが Good Job!

これまで福祉施設に関係のなかった人と暮らす着眼点が新しい。料理や畠仕事など、継続的に魅力的な場を運営していくことで関係性が生まれ、豊かな仕事場を生み出している！



「つばめキャンドル」  
新潟  
社会福祉法人燕市社会福祉協議会  
就労支援センター×企画製作室 Bridge

「幸せのおすそわけキャンドル」など、結婚式場で使用された後、障害のある人とともに再形成してつくる、キャンドル製品。

G つばめキャンドル のここが Good Job!

地元の産業をいかした道具づくりを行う。製法をシェアしたり、製造工程を工夫したりするなど、ものづくりを楽しむ場をつくり出し、多様で持続的な関わりを育んでいる！



「長いがま口」  
京都  
NPO法人スティング×中梅織物株式会社

NPO法人スティングの芸術創作活動「オレたちひょうげん族」の作品と、西陣織の老舗・中梅織物の協働により生まれたプロダクト。

G 長いがま口 のここが Good Job!

地域の伝統産業との協働を積極的に行い、そこから生まれる相乗効果を存分にいかしている。商品企画力と、従来の福祉製品をこえようとする意気込みが素晴らしい！



「rubodan」  
沖縄  
SIMPLE PAPER MADE Network

ダンボールを簡単に1枚ずつ分けるSIMPLE PAPER MADE製法により、ノートやレター、セットなどを製造・販売。沖縄を中心に活動。

G rubodan のここが Good Job!

シンプルなアイデアで魅力的なプロダクトをつくるだけでなく、SNSなどを活用して、製法をシェアする仕組みづくりに注力。障害のある人の仕事をひろげていく可能性あり！



「森のキッチン」  
大阪  
社会福祉法人コスマス

堺市役所に開店した、障害のある人がスタッフの半数を占めており、設立・運営に各分野の専門家が関わっている食堂カフェ。

G 森のキッチン のここが Good Job!



「KOPPA」  
沖縄  
NPO法人ワークサポートひかり  
×株式会社ルーツ × LUFT 真喜志奈美

丸太の製材所から出る「木っ端」を再利用し、デザイナーとともに人や動植物が集うためのプロダクトを生産する取り組み。

G KOPPA のここが Good Job!

モノからはじまるコミュニケーションの可能性を深め、汎用性の高い仕組みを構築しており、今後の活動の展開にも期待。プロダクト自体も、まっすぐ素直な魅力がある！



「ふく福たまご」  
山形  
ふくふくファーム×アカオニデザイン

パッケージ加工、飲み水や飼料管理など、障害のある人の丁寧な手仕事が光る「ふくふくファーム」によるたまご。

G ふく福たまご のここが Good Job!

たまごの品質の高さは、障害のある人の丁寧な手仕事によるもの。製法をシェアする仕組みだけでなく、作業工程もわかりやすく工夫され、パッケージを含むデザインも魅力的！



「琉Q / ルキー」  
沖縄  
KIGI ×一般財団法人沖縄県セルフセンター

障害のある人の工賃アップを目的に、沖縄の食文化に育まれてきた調味料や工芸品を商品化するブランド。

G 琉Q / ルキー のここが Good Job!

購買意欲をくすぐるデザインはもちろん、複数の福祉施設が協力してひとつのブランドをつくっている。ものづくりを通して新たな観光資源を創出している点も評価のポイント！



「カガワ3Dプリンタfunこみゅ」  
香川

障害者福祉施設への3Dプリンタ導入により、障害のある人とともに身辺の不便改善やワークショップ、雇用創出を行うプロジェクト。

G カガワ3Dプリンタfunこみゅ のここが Good Job!



「株式会社ふくしごと」  
福岡

福祉全体のコンサルや製品開発、障害のある人の表現をいかしたデザイン業務など、福祉に関わる仕事をサポートする株式会社。

G 株式会社ふくしごと のここが Good Job!



「よしすけアートカードゲーム」  
神奈川  
木原共+慶應義塾大学SFC  
水野大二郎研究会×よし介工芸館

障害のある人のアートに触れるきっかけをつくり、その魅力をカードゲームの形式でひろめ、その距離を縮める取り組み。

G よしすけアートカードゲーム のここが Good Job!

楽しく遊びながら、理解を深められるだけでなく、プロダクトを製造・販売するための仕組みそのものを提案する。学生の取り組みとして、今後のさらなる発展に期待！



「MADE BY BRAD」  
カナダ  
Brad Fremmerlid + Mark Fremmerlid

自閉症のブラッドが持つ特技をいかし、社会の一員として役割を担えるよう父親が考案・設立した、家具などの組み立て代行サービス。

G MADE BY BRAD のここが Good Job!

障害のある人とその親の、新しいビジネスモデルを提案。個人の特性をいかしつつ、WebやSNSを活用することで、負荷をかけることなく、新たな仕事を創出している！

# REVIEW of Award

## Good Job! Award 審査会より

今年度はじめての開催となる、「Good Job! Award」。118件の応募の中から選ばれた12の取り組みを、審査員と事務局とで慎重に協議、審査しました。約1時間にわたる議論は、各審査員の「基準」を語るところからはじまりました。

### 審査基準の多様なあり方

——今日はお集まりいただきありがとうございます。出展者のプレゼンテーションをもとに審査をはじめます。早速ですが、各々の大賞候補とその次点を挙げていただき、その理由も伺いたいと思います。

田村：僕の大賞候補は「つばめキャンドル」。次点が、「MADE BY BRAD」。選ぶ際、大切にしたのが「モデルの自立性」です。「つばめキャンドル」の場合は、この方法と仕事のつくり方がほかの地域でも展開できる。もうひとつは、つくり手が主体的に関わる仕事になっていること。そして、自分でも欲しくなるようなプロダクトの完成度だったので選びました。

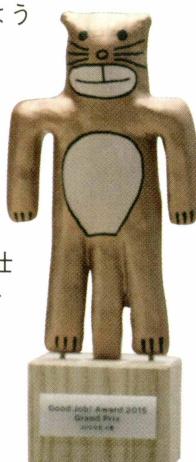
「MADE BY BRAD」は悩みましたが、「施設」ではなく「家族」との新しい関わり方を仕事に結びつけています。その自立性の高さに可能性を感じました。

柴崎：私は、大賞候補を「カガワ3Dプリンタ fun こみゅ」、次点が「ドニさんの家」。障害のある人の主体性に着目して、自分の中で響いたものを、議論を前提に大賞候補として挙げています。

原田：僕は障害のあるなし関わらず、新しい仕事、生き方の考える種になるようなものを選びました。大賞は「ドニさんの家」で、次点が「カガワ3Dプリンタ fun こみゅ」。障害のある人の仕事づくりにおいて、施設の人たちがどう関わってデザインが生まれたのかに着目しています。ただ、今回の事例からは、まだそれが見られなかったので、事例を知ることでアイデアが生まれてくるようなものを選びました。

前川：大賞候補が「ドニさんの家」。次点が「森のキッチン」と「株式会社ふくしごと」です。目線が違うだけで、すべて「Good Job!」でしたね。新しい仕事、はたらき方という意味で「ドニさんの家」は、障害のある人への目線が違った気がします。後者は、障害のある人がその場にいることで社会に良いものができるといううらえ方に共感し次点に選びました。

ナガオカ：僕は、たまたま審査会場の横にショップを持っているので、そこで「何を売りたいかな」という視点と、環境問題が軸です。悩んだのは、夢か現実のどちらの方向にいくか。僕は現実の方に目を向けて、「つばめキャンドル」が大賞。次点は「ふく福たまご」に。ストーリーを売り場できちんと伝えながら、なおかつ需要もあってクオリティも高い。明日から



でも売れると思い、この2つにしました。

——ありがとうございます。票数では、1位が「ドニさんの家」、次点が「つばめキャンドル」ですね。

### 何が「Good Job!」であると言えるか

柴崎：これからGood Job! Projectが、どんな方向をめざすのか。今回の大賞の決め方が、ものすごく影響すると思います。何を“良き仕事”ととらえ、提案していくのか、なぜそれを選ぶのか、関わった人たちにきちんと説明する態度も重要です。



田村：すごく対照的なので、方向性次第もある。「ドニさんの家」は、やっぱりローカルだと思います。ある種「スロー」な生き方についての、これから価値観の提示として象徴的。「つばめキャンドル」は逆にあまりローカル性がなく、各地でできる仕事のつくり方としてひとつのモデルケースとなりうる。

——先日「ドニさんの家」へ、事務局スタッフが見学しに行きました。施設の中に異なる価値観の人が介入し存在するだけで、場のあり方が変わっていく。これもひとつのモデルになりうると感じたそうです。

田村：今回のアワードで、「ああそうか」と思った特長が、それぞれの拠点とする地域に東京がないこと。そして、そのうち3つが沖縄だということです。

前川：世の中の流れとして、どんどんファストになっている中で、やっぱり障害を持っている人のテンポ、価値観をどう大切にしていくのか……。

ナガオカ：そうですね。そのお手本が福祉施設にあるということですね。

原田：単純作業を施設の中で行う場合、どう創造性を生んでいくかが大事だなと思っています。それこそ「つばめキャンドル」の方が、それまで受注していた仕事がなくなり、使う機械や道具もすべて施設から引き上げられたことで、主体的に施設の中の人が関わる仕事が生まれてきたと言っていました。それが価値だろうなと思う。そうやって、これからは仕事を選び、仕事をつくることをやっていかないといけない。

### 社会にいま提案すべき価値観

前川：いまの社会の雰囲気として、「ドニさんの家」ってすごく素敵な思想だなと思っていて。はたらく=お金が中心、ではない。「つばめキャンドル」

は私もすごくいいと思っているんですが、そうすると、「KOPPA」や「rubodan」と比較して「プロダクト的にはどちらが良いか」という話になる。さきほど、柴崎さんが言っていた、何に重きを置くか決まれば、進む気がします。「ドニさんの家」となったらうれしいけれど、「Good Job!」の方向性をそちらに決めてもいいのかな？とも思う(笑)。

柴崎：いま、福祉施設が社会保障の枠の中で経済的にも完結できてしまう。しかし今後、普通のシェアハウスに障害のある人が数人いる状況をつくるとか、地域に障害のある人が住むようなことも増えていくはず。社会のこれから流れに対して、「ドニさんの家」を大賞にするという振り切り方は、思い切っていると思います。

田村：やっぱり「ドニさんの家」なんだと思います。以前に「たんぽぽの家」の理事長、播磨靖夫さんが話していましたが、障害はある種の先進性を持つ。障害のある人がイノベーターであると考えたら、やっぱりオルタナティブな価値観をどうやって提示していくのかを考えたい。そっちに振り切るのがいいかなと思います。

——では、大賞は「ドニさんの家」とします。また、予定にはありませんでしたが、議論の中から「つばめキャンドル」を次点とし、発表は審査の経緯も含めて行いたいと思います。長い時間、ありがとうございます。



Good Job! AWARD 各賞審査・表彰式

開催日時：2015年12月20日(日) 13:00 - 16:00

審査員：塩瀬隆之(京都大学総合博物館准教授) 柴崎由美子(NPO法人エイブル・アート・ジャパン代表理事) 田村大(株式会社リ・パブリック共同代表) ナガオカケンメイ(デザイン活動家) 原田祐馬(アートディレクター/デザイナー) 前川亜希子(エイブルアート・カンパニー商品開発ディレクター) 会場：渋谷ヒカリエ8F 8/COURT



遠隔で参加した塩瀬さん評はこちら

大賞としたいのは「ドニさんの家」。障害のある人の暮らしを大切にしつつも「ドニさんの家」を中心としているところが秀逸だと思います。次点が「長いがま口」。伝統的な西陣織との協働を取り入れ、人と社会へのはたらきかけの区別なく、つながりあい、ものづくりをしっかりと進めることを重視しています。

# THOUGHT of Projects

Good Job! Award 2015に入選した、6つの取り組みに聞きました

MADE BY BRAD が考える

「個性や得意をいかした仕事」とは？



Mark  
Fremmerlid  
ブラッドの父

ブラッドの場合、  
こんな仕事です。

ブラッドはいつも何か仕事をしたがるので、彼に合う仕事が見つかればと常々思っていました。彼が能力を発揮するのは、例えば、組み立て式の家具を組み立てるときです。組み立て中に問題にぶつかると、ためらうことなくすぐに元に戻して再度挑戦し、結果的に時間がかかったとしても、きちんと図説通りに組み立てることに全力を注ぎます。また興味があるのは組み立ての作業だけなので、組み立て終わったら、できあがったものにはまったく執着しません。こういった個性や得意が、結果的に彼にぴったりの仕事につながったのだと思います。ひと仕事を終えた後には、リラックスしながらスナックを食べるのが好きなようです。

ドニさんの家 が考える

「これからの暮らし方・はたらき方」とは？



木谷 真人  
ドニさんの家

暮らしの中にある  
「はたらく」こと。

世の中で考えられている「はたらく＝賃金労働」というとらえ方は、お金が中心にあり過ぎて、私たちには少し窮屈に感じられます。仕事の内容も、部分的なことを切り取って考えるのではなく、暮らしや生活の一部として「はたらく」をとらえる視点が大事だと思います。例えば、家事や自給的なことなど、お金を使えば簡単に済まされてしまう暮らしに関わることを、あえて自分の手を動かして、やってみる。お金は必要ですが、無意識にお金中心の社会に巻き込まれていくのではなく、まずは自分がどう暮らしていきたいかを定めることで、少し楽にこれからを過ごせたり、「はたらく」を考えていけるのではないかと思います。

森のキッチン が考える

「協働のしくみ」とは？



増田 靖  
社会福祉法人  
コスマス

開かれた福祉は  
地域の未来をも変える。

森のキッチンでは、「障害のある人にとって良い社会づくり」を目指すことは、「誰にとっても良い社会になる」ことであると考えています。その環境をつくっていく上では、できるだけ多様なセクターの人々が集まり、交流と対話を通じて、多様な考えが生まれ、関係がひろがっていく必要があると考えています。そうすることで、社会にとって良い関係づくりや、新しいコトが生まれ、幸せにつながるのだと思います。森のキッチンは、そのときの舞台である「協働の場」になれたらと願っています。つまり、人と人がつながり、オープンな関係が築かれ、開かれる場所(福祉)には、地域の未来をも変える力があると考え、願っています。

よしだけアートカードゲーム が考える

「楽しく伝える仕組み」とは？



木原 共  
慶應義塾大学  
SFC

遊びを通して  
障害について考える。

自閉症などの障害がある人たちがどのように世界をとらえているのか、私たちはあまり知りません。しかし、多くを語らない彼らでも、描く絵は実にさまざまなことを語ります。大好きな猫が亡くなってしまった話や、施設の人と仲良くなれた話……彼らの絵をよく見ると、1枚1枚にとってもユニークな物語があることに気づきます。よしだけアートカードゲームは絵から感じた物語を独自の解釈で語る遊びによって、彼らの目線・世界・感性に触れるきっかけをつくります。カードゲームという誰もが参加できる遊びを通して、障害者支援施設の存在を知らなかったような人たちに、障害や福祉について考えるきっかけをつくっています。

ふくしごと が考える

「活動を販売につなぐ方法」とは？



樋口 龍二  
株式会社  
ふくしごと

社会の期待に応える  
価値やサービスの創造。

全国で障害者の就労支援をする福祉事業所は、1万2千ヵ所あると言われ、その大半が商品の製造販売、飲食や清掃などのサービス提供、外部からの受注業務などを行っています。そして、商品開発、販路開拓、営業などの業務で苦戦しているところが多く見受けられます。その理由として、商品やサービスを「つくる」、「販売する」の前に大切な「計画する」過程が疎かになってしまっていることが要因なのではないか、と考えます。「もの」「こと」をつくりしていく際には、まずは商品・サービスに社会(顧客)の期待とコミットできる目的を定め、事業計画(製造・サービス、販売などの年間計画)をしっかりと立てることが大切です。

KOPPA が考える

「工程を分解すること」とは？



森田直広  
株式会社  
ルーツ

新たなクミシロ、  
ノビシロをつくる一歩。

KOPPAにとって「工程を分解すること」とは、単なる効率化や役割の明確化だけではなく、「工程の再構築」としてとらえています。材料の検討、商品の構造、製造方法の見直し、ステークホルダーとの関わり方、商品の存在意義を見つめ直し、変わらぬ部分と変わる部分を決め、改めて工程を組んでいきます。この再構築の過程が単なる分業をこえて、お互いの可能性・創造性を引き出す共同作業へと進んでいけると考えています。その結果、KOPPAに関わる事業所・デザイナー・事務局・生活者が立場や役割を変化させて、KOPPAは進化してきました。これからも、そうした多様性を受け入れ、積極的に変容する商品・プロジェクトとしてあり続けていきます。

# SEMINAR Report

## 障害のある人の「未来のしごと」 ～IoT & Fabによる仕事革命～

日付：2016年2月28日(日)  
スピーカー：水野大二郎、三野晃一、藤川千尋、  
吉行良平、藤井克英

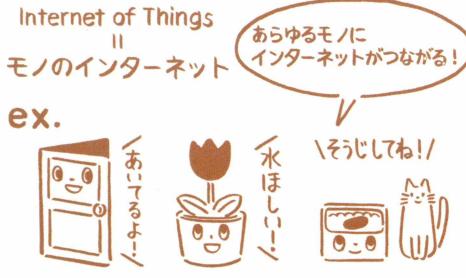
新たな技術がもたらす、  
ものをつくるための想像力

大阪の「Good Job!展」に合わせて「障害のある人の『未来のしごと』」をテーマに行われたセミナーでは、定員を超えて約100名が参加した。第一部は、暮らしの中で革新的な技術となる「Internet of Things(以下、IoT)」や、つくり手のネットワークとコミュニティを包括的にとらえる「Fab」、そこから生まれる／考えるべき社会制度の指針をつくる「Fab社会」といった新たな概念について、また、それらが福祉の分野でどんなものづくりの可能性をもたらすのか、デザイナーサーチャー・水野大二郎氏が基調講演を行った。休憩をはさんで第二部は、福祉施設におけるものづくりの現場で活動する2組のプレゼンテーション。その後、登壇者によるディスカッションをもって終了した。

IoTやFabといった社会のさまざまな基盤を多岐にわたって根底から変えていく技術・考え方には、もちろん福祉の分野にも影響を与えていた。水野氏は講演の中で、障害者の「ための」デザインから、障害者と「ともに」デザインする、障害者「による」デザインへと推移しつつあると語ったが、実際の現場で活動する人たちはどんな想いなのか。

3Dプリンタの技術を独学で学び、障害のある人のニーズに合わせて「電動車椅子のノブ」「かぞえ棒」「固定式水筒台」などの補助具を創作する三野氏と藤川氏は、まさにその実践者だ。藤川氏は自身も障害を持ち、コミュニティの仲間とともに生活の不便を解決するさまざまな道具やアイテムを試作・試用し、日々アップデートを繰り返している。そして、学んだ知識と技術をもとに地域の子どもたちとワークショップを行うなど、ものづくりの想像力を新たな仕事へとつなげている。

### IoTってなに？



### Fabってなに？



**POINT** 誰もがデジタル工作機械や地域に開かれた工房や  
ウェブなどを通して、ものづくりができる時代になった！

Illustration: Yosuke Yamauchi

[Good Job! Annual Report 2015-2016]

発行日：2016年3月31日 発行元：一般財団法人たんぽぽの家 〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 Tel 0742-43-7055 Fax 0742-49-5501 E-mail goodjob@popo.or.jp URL http://goodjobproject.com/ 監修：Good Job!プロジェクト 編集ディレクション＆編集：多田智美(MUESUM) 編集：永江大(MUESUM) アートディレクション＆デザイン：原田祐馬(UMA/design farm) デザイン：西野亮介、平川かな江(UMA/design farm) 印刷・製本：株式会社シーズクリエイト  
\*本フリーペーパーは、「Good Job!展 2015-2016」開催に際し発行されました。

## Good Job! 2015-2016



MIYAGI 宮城展

2015.12.13(sun)-15(tue)  
せんだいメディアテーク1F  
オープンスクエア

来場者数 のべ 2,430人

セミナー

テーマ 未来をつくる仕事～協働から生まれる新しいはたらき方～

日時 2015年12月14日(月) 14:00-17:00

会場 せんだいメディアテーク1F オープンスクエア

スピーカー：岡部太郎(一般財団法人たんぽぽの家 事務局長)、蜂谷哲平(一般社団法人日本漆総合研究所 代表理事)、大竹愛希(合同会社楽膳 代表)、菊田俊彦(NPO法人ほっぷの森 常務理事、長町遊楽庵びすたへり 代表)、廣森知恵子(株式会社ハーバー研究所 取締役)、ハーバービューティプロデューサー)



TOKYO 東京展

2015.12.18(fri)-20(sun)  
渋谷ヒカリエ8F 8/COURT

来場者数 のべ 4,750人

フォーラム

テーマ これからのはたらき方を語り合う2時間

日時 2015年12月18日(金) 18:30-20:30

会場 渋谷ヒカリエ 11F Hikarie カンファレンス Room C

スピーカー：里見喜久夫(季刊『コトノネ』発行人・編集長)、森田直広(株式会社ルーツ)、樋口龍二(株式会社ふくしごと 取締役副社長)、増田靖(社会福祉法人コスマス 森のキッチン)、木谷真人(ドニさんの家)、木原共(慶應義塾大学SFC 環境情報学部 水野大二郎研究会)



OSAKA 大阪展

2016.2/26(fri)-3/1(tue)  
無印良品グランフロント大阪  
Open MUJI

来場者数 のべ 3,496人

セミナー

テーマ 障害のある人の「未来のしごと」～IoT & Fabによる仕事革命～

日時 2016年2月28日(日) 13:45-17:00

会場 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル カンファレンスルーム Tower-C 8階 C03

スピーカー：水野大二郎(慶應義塾大学環境情報学部准教授)、三野晃一、藤川千尋(カガワ3Dプリンタfun コミュニティ“不便改善グッズ”チーム)、吉行良平(吉行良平と仕事)、藤井克英(社会福祉法人わたぼうしの会 Good Job!センター開設準備室)



OITA 大分展

2016.3/4(fri)-6(sun)  
大分県立美術館1F アトリウム

来場者数 のべ 1,334人

セミナー

テーマ 障害のある人の「未来のしごと」～ART × DESIGN が  
変える暮らしとはたらき～

日時 2016年3月6日(日) 13:30-17:00

会場 大分県立美術館(OPAM) 2F 研修室

スピーカー：棕野美智子(大分大学大学院福祉社会科学研究科客員研究員)、森下静香(一般財団法人たんぽぽの家 常務理事)、原田祐馬(UMA/design farm 代表)、新山直広(TSUGI 代表)、樋口龍二(NPO法人まる 代表理事、株式会社ふくしごと取締役副社長)、藤井克英(社会福祉法人わたぼうしの会 Good Job!センター開設準備室)

「Good Job! 展 2015-2016」 主催：一般財団法人たんぽぽの家 後援：宮城県、大分県、仙台市、大分市 助成：日本財團 特別協賛：株式会社丹青社、トヨタ自動車株式会社 協賛：株式会社ソフィア、株式会社西山ケミックス、株式会社ハーバー研究所、株式会社プリプレス・センター、コクヨ株式会社、明治安田生命保険相互会社 協力：渋谷ヒカリエ、一般社団法人北海道チャレンジアート＆プロダクツ、NPO法人エイブル・アート・ジャパン、NPO法人まる 会場構成：dot architects メイングラフィック：UMA/design farm 編集協力：MUESUM 映像制作：中村太紀・平尾奏午

THE NIPPON  
財團 FOUNDATION

Sophia

株式会社 プリプレス・センター

株式会社 丹青社 TOYOTA

かばきち

KOKUYO

HABA  
HEALTH AND BEAUTY AID

明治安田生命